総括

(はじめに)

- 〇「国際園芸アカデミー有識者会議」において、アカデミーのあるべき姿を議論し、下記の事項を実施すべきとの結論に至った。
- 〇各事項の実施スケジュールについては下記「想定スケジュール」及び各WG作成ロードマップのとおりであるが、特にハード整備が必要なものについては、 社会経済情勢により前後することがあり得るものとする。
- 〇なお、議論の過程において「教育内容の充実」についてはアカデミーが検討し、その他の議題については「花と緑の振興センターWG」「教育環境の充実WG」 の2つのWGを設置し、次の役割分担で検討を行った。
 - 「花と緑の振興センターWG」…業界の壁を越えた連携による花き産業の振興と担い手の育成のあり方
 - ・「教育環境の充実WG」………フィールドの充実(施設、機械、設備等の整備)による教育環境のあり方
 - ・「国際園芸アカデミー」………花と緑の産業に直結した教育改革のあり方

1 国際園芸アカデミーの教育改革(主にカリキュラム面)

【国際園芸アカデミー】

- 〇教育改革の推進にあたっては、「卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) | 等の3つのポリシーを定め、これに沿って実施する。
- 〇そのうえで、花と緑の産業に直結した教育を実践するため、次の5つの改革に取り組む
 - ・教員の意識改革や企業との連携強化による教育体制の充実
 - ・経営手法の習得や商品企画力の醸成による経営感覚に優れた人材の育成
 - ・社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成
 - ・園芸・緑化技術の習得及び向上による担い手の育成
 - ・企業向け、一般人向け講座の開設による社会人教育・生涯学習の充実

2 国際園芸アカデミーの教育環境の充実(主にフィールド面)

【教育環境の充実WG】

「想定スケジュール」

「想定スケジュール]

・可能なものから速やかに実施

- ○校内フィールドの充実
 - ・最新設備の導入による学習環境の向上
- 〇花フェスタ記念公園の活用
 - ・実習棟の再整備による学習環境の向上や作品の直売施設の新設によるコミュニケーション能力と マーケティング能力の向上
- ○校外フィールドの確保
 - ・インターンシップの充実による実践的技術の習得や地域社会と連携した花と緑のまちづくり

3 (仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアムの設置

【花と緑の振興センターWG】

- ○業界の壁を越え産学官金が連携した花と緑の産業振興
 - ・行政と企業が連携した産業振興事業の実施(癒しの空間づくり、SNS情報発信、学生ビジネス提案コンペ)
 - ・企業等のワーキンググループによる事業の実施(マーケットインの商品開発、オンリーワン品種の育成)

「想定スケジュール」

・コンソーシアム設置:R3(*花き戦略会議を改組)

·機械·設備:R3 計画策定 R4 導入(目標)

・施設整備:R3~4計画・設計 R5整備(目標)

:R3 可能なものから実施

4 (仮称)清流の国ぎふ花と緑の振興センターの設置(担い手育成支援施設の設置)

○企業や大学等教育機関と連携した担い手の育成と産業の振興

- ・「扫い手育成支援施設」の設置・運営(研修受入・研修計画策定・広報・情報発信)
- ・コンソーシアム事業の運営支援(事務局)

【花と緑の振興センターWG】

- ·研修施設 : R3 計画策定 R4 整備(目標)

(今後の検討課題)

- 〇今後、上記の内容を一定期間実施し、その効果を検証した上で更に次の事項を検討することが望ましい。
 - ・国際園芸アカデミーの花フェスタ記念公園への全面移転
 - ・花フェスタ記念公園を中核とした社会人教育・生涯学習機能の展開

「想定スケジュール」

・センター設置:R3 設置準備 R4 設置(目標)

全体構想 ~ 花と緑の振興センター・コンソーシアム・園芸アカデミー・実習フィールド~



企業と連携した担い手の育成と 産業の振興

担い手育成・支援施設



- 花と緑の振興を、 1 若手生産者(就農2~5年目)の技術力向上研修
 - 2 経営管理能力向上のための研修
 - 3 新規就農希望者・定年帰農者の技術習得研修
 - 4 国際園芸アカデミー卒業生の就農支援研修
 - 5 コンソーシアムWGの試験研究・実証の場
 - 6 スマート園芸など業界のDX化に向けた研究

(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム

業界の壁を越えた花と緑の産業振興



- ・行政と企業が連携した産業振興事業
- ・企業等のワーキンググループによる事業

実習フィールド

実践力の磨き上げの場の充実

花フェスタ記念公園の活用

- ・実習棟の再整備による学習環境の向上
- ・作品の直売施設の新設によるコミュニケーショ ン能力とマーケティング能力の向上

校内フィールドの充実

・最新設備の導入による学習環境の向上

校外フィールドの確保

・インターンシップの充実による実践的技術の習得 や地域社会と連携した花と緑のまちづくり

国際園芸アカデミー

ディプロマ・ポリシーなど3つの方針 による社会に通用する人材の育成

教育内容の改革

- ◆花と緑の産業に直結した教育の実践
- 1 教育体制の充実
- 2 経営感覚に優れた人材の育成
- 3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成
- 4 園芸・緑化技術の習得及び向上
- 5 社会人教育・生涯学習の充実

3

(1) 国際園芸アカデミーの3つの方針

本学の基本理念「花と緑の空間づくりによる健康で心豊かな生活の創造」に基づく充実した教育活動を 展開することにより、生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていく人材を育成するため、 3つの方針を定めます。

卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

国際園芸アカデミーは、次の資質・能力を身に付けた学生に対して卒業を認定し、「専門士 (園芸系専門課程) | の称号を授与します。

- ① 幅広い教養を身に付け広い視野に立ち、物 事に対して公正な判断をすることができる。
- ② 幅広い専門的知識と創造的な技能、<u>優れた</u> 経営感覚を身に付け、社会における諸問題の 解消のためにその知識・技能を活用すること ができる。
- ③ 社会における課題探求と問題解決の能力を 修得し、主体的に学び続け、学んだことを分 かち合い、ともに成長することができる。

教育課程の編成・実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

国際園芸アカデミーは、教育目標を達成し、称号授与 方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、次のよう な教育課程を編成し、実施します。

- ① 教育課程において、基礎教育科目、専門教育科目、応用教育科目、研究教育科目を段階的に学習できるよう体系的に編成し、<u>講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する</u>ことにより専門分野の知識・技能を確実に修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。
- ② 演習や実習科目を中心に能動的学習要素を取り入れることにより、<u>生涯にわたって主体的に学び</u>、他者との相互理解や意見交換ができるようにする。
- ③ 学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、学習行動調査や国際的な評価制度(GPA)の導入、修得時間数に基づく個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。
- ④ 開講科目については、シラバスにより授業計画、学習到達目標、成績評価基準などを明確にし公表する。

入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

国際園芸アカデミーは、高等学校等における 学習を通じて、次のような資質・能力を身に付 けている人を受け入れます。

- ① 専門学校での学修の基礎となる高等学校に おける各教科の基本事項を修得している。
- ② 学修成果を社会で活かすという目的意識がある。
- ③ 専門学校在学中だけでなく、<u>卒業後も学び</u> 続ける意欲がある。
- ④ モラルがあり、<u>基本的な態度や礼儀(言動</u> や身だしなみなど)が身についている。
- ⑤ 基本的な生活習慣(体調管理、時間管理など)が身についている。
- ⑥ 他者を思いやり、協調性を重んじる人

(2) 国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応(その1)

- ◆ 業界を取り巻く環境が激変する中、花と緑の産業に直結した教育の実践が必要 そのため、以下に取り組む
 - 1 教育体制の充実
 - 2 経営感覚に優れた人材の育成
 - 3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成
 - 4 園芸・緑化技術の習得及び向上
 - 5 社会人教育・生涯学習の充実

1 教育体制の充実

課題

【教員の意識改革】

- ・業界を取り巻く情勢は大きく変わってきているのに、授業 内容は変わっていない。教員の意識改革を行う必要がある
- ・教員は自分の専門の穴にこもっている。園芸アカデミーの 教員であってよかったと思えるような改革提案を自らすべ き

【企業との連携強化】

- ・卒業後の就農、就業対策が重要であり、就職先を見据えた 教育が必要
- ・企業との連携を強化し、十分な就職先を確保することが魅力増進となる

対 応

【教員の意識改革】

- [新] 教員の刺激となり、教育の質を高めるため、企業や岐阜 大学教授等の多様な講師による授業を実施
- [新] カリキュラム編成や授業方法を学ぶため、先進的な農学・造園系大学及び専門大学校への派遣研修を実施
- 【拡】企業研修を<u>複数の企業で多角的に実施</u>し、習得した最新 技術等を授業に反映

【企業との連携強化】

- [新] 就職に直結する企業へのインターンシップ派遣に加え、 現場の多様性を学ぶための視察機会を増大
- 【拡】教員による企業研修を通じた<u>業界とのネットワーク構築</u> を強化
- [継] オンライン形式の企業説明会によるマッチングの機会を創出

(2) 国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応(その2)

2 経営感覚に優れた人材の育成

課題

【経営手法の習得】

- ・生産の担い手、生花店、造園業いずれの職業もマーケティング やICT活用、経営分析能力は必須。利益が出なければ再投 資はできない
- ・会社を設立したと想定し、仕入れから販売まで経営者として 学ぶ必要がある。
- ・花業界の担い手育成は非常に厳しい。花を生産するだけでな く、新たな付加価値をつける必要がある。

【商品企画力の醸成】

- ・植物の物語や歴史などの知識を応用し、商品プロデュースで きる教育が必要
- ・高齢者や障害者に対応した店作りや商品開発に役立つため、 花の効果・効用を学ぶことが必要
- ・業界のトレンドに対応できるよう異業種を知ることが必要

対 応

【経営手法の習得】

- [新] 起業家や経営者の講義を新たに設け、起業・経営の多角 的な学びの機会を創出
- 【拡】会社設立を想定した起業・経営論を学ぶ、選択科目授業 「起業・経営シミュレーション」を必修化

【商品企画力の醸成】

- [拡] 市場に流通する商品の動向調査と、それをベースにした 新商品の企画・生産、さらには販売プロモーション制作な
 - ど、調査・企画・販売の3つの工程を下記授業で体系化
 - し、商品プロデュース力を強化

-「商品動向リサーチ」

「生産プロジェクト実習」

「SNSプロモーション」

3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材の育成

課題

【社会に通用する人材の育成】

- ・自発的に考える主体性のある学生の育成が必要
- ・社会性と職業意識を身につけた人材の育成が必要
- ・お客さんの対応ができる社交性のある人材育成が必要
- ・グローバルな視点を持ち、情勢の変化についていける人材の 育成が必要
- ・社会常識があってコミュニケーションをとることができる人 材の育成が必要

対 応

【社会に通用する人材の育成】

- 【拡】花フェスタ記念公園実習フィールドに加え、<u>直売所や実</u> 習棟等を活用した実践的な授業による能動的な学習
- [新] 自治体との連携による公園整備への参画やイベントへの 出展など、地域社会との繋がりを重視した新たな取組強化
- [新] ボランティアへの参画を通じた自立意識の醸成及びボランティア経験者への単位の付与
- 【継】「キャリアデザイン」授業において、建設的なディスカッションを通じた協働や合意形成への意識醸成

(2) 国際園芸アカデミーの教育内容の充実に向けた課題と対応(その3)

4 園芸・緑化技術の習得及び向上

課題

【担い手の技術力向上】

- ・担い手をいかに育成していくのかということが重要
- ・卒業制作に時間をかけるより、実践的な技術に関わる資格の 取得など、実践技術の習熟度で評価する仕組みが必要

5 社会人教育・生涯学習の充実

課題

【社会人教育(企業向け講座)の充実】

- ・専門技術教育分野を展開するべき。
- ・社会性やコミュニケーション等幅広い教育には高校だけでは なく社会人も対象とし多様な学生を受け入れるべき。

【生涯学習(一般人向け講座)の充実】

・園芸を楽しみたい、フラワーアレンジメントをやってみたい、 庭木を剪定したいなどの一般人向けのニーズに応える講座を 充実するべき

対 応

【担い手の技術力向上】

- [新] 企業へのインターンシップに加え、コンソーシアム企業が受け手となり最新技術を習得する研修機会を創出
- 【拡】卒業制作の時間を減らし、<u>生産プロジェクト実習、フラワーデザイン実習、造園施工・管理実習等の実践的な授業</u>による能動的な学習を拡充
- [継] 国家資格等の取得に向けた授業の実施(造園施工管理技士、造園・フラワー装飾技能士、園芸福祉士など)

対 応

【社会人教育(企業向け講座)の充実】

- 【新】「(仮称)清流の国ぎふ花と緑の推進センター」の担い手育成 支援機関と「(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」が連 携し、卒業後の再教育を支援
- [新] 国家資格等の取得のための実習を、社会人を対象とした 講座として新たに開催
- 【拡】公園管理、道路緑化、園芸福祉等に加え、<u>フラワーマー</u> ケットトレンドや園芸色彩学等の講座を拡充
- [拡] 社会人の学び直しの場としての科目等履修生及び研究生制度について、<u>就職先企業やインターンシップ先への広報活動を展開</u>

【生涯学習(一般人向け講座)の充実】

【新】市町村との連携・協力協定に基づく市民向け講座を開催

【拡】季節ごとに楽しめる植物の育て方講座や、親子·夫婦で 楽しめる講座を拡充

(3)国際園芸アカデミーの教育内容の改革(全体図)(案)

(仮称)清流の国ぎふ 花と緑の振興センター

花と緑の産業振興

・業界ニーズに応じた人材育成支援

担い手育成支援(研修)

・園芸アカデミー学生の技術力向上研修

コンソーシアム運営支援

- ・他産業との連携促進
- ・事業の運営支援

国際園芸アカデミーへの講師派遣

学生のインターンシップ受入れ

<メンバー>

生産者、花き関連団体、造園関連団体、 メディア、大学等教育機関、企業、 研究機関、消費者、自治体、JA、金融

国際園芸アカデミー

ディプロマ・ポリシーなど3つの方針 による社会に通用する人材の育成

教育内容の改革

- ◆花と緑の産業に直結した教育の実践
- 1 教育体制の充実

研修

尤農·就業支援 卒業後用教育 講師派遣

- 2 経営感覚に優れた人材の育成
- 3 社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成
- 4 園芸・緑化技術の習得及び向上
- 5 社会人教育・生涯学習の充実

花フェスタ記念公園 実習フィールド

実践力の磨き上げの場の充実

実習フィールドの再整備

・実習棟、最新設備導入による学習環境向上

作品の直売施設の整備

・コミュニケーション能力、マーケティング能力向上

装飾作品展示・発表の場の確保

・学生のモチベーション向上

TO SHEET STATE OF THE SHEET STATE OF THE SHEET STATE OF THE SHEET SHEET SHEET STATE OF THE SHEET SHEET

自治体・企業等 校外フィールド

花と緑に関する地域社会の発展と 人材の育成に寄与

- ・イベントでの作品の販売
- ・イベントでのディスプレイ展示の製作
- ・自治体のまちづくり協議に参加

4 国際園芸アカデミー教育環境の充実

(1) フィールド別教育環境の充実イメージ

教育環境の充実

教育環境の充実に向けた検討内容

活用するフィールド

校内

学習環境整備

・機械・設備の充実

・最新技術が学べる機械・設備の新規導入



国際園芸アカデミー

花フ

エ

ス

夕 記

念 公

園

直売所・交流施設の 整備

- ・活動発表の場の充実
- ・来園者との交流・花き 販売
- ・ 消費者との交流によるニーズを捉えたものづくりの実践
- ・来園者に向けた装飾作品展示や発表会の実施
- ・消費者交流・作品販売のための常設直売施設の設置



花フェスタ記念公園 (サテライト施設等)

実習フィールドの 再整備

・実習棟の整備

- ・ 実習フィールドに併設した座学が行える実習棟の整備
- ・本格的な造園施工実習が学べる設備の新規導入

校

実践的技術の習得

- インターンシップの充実 及び企業研修
- ・ 自治体や企業と連携した新たなフィールドの確保



自治体・企業・県試験場

外

地域社会との連携

- ・花と緑のまちづくり
- ・ 学生提案による花と緑のまちづくりの実現



自治体・企業

(2) 花フェスタ記念公園のフィールド活用例 ~花フェスタ記念公園全体~



(3) ロードマップ イメージ

2020年 2021年(R3) 2022年(R4) 2023年(R5) 2024年(R6) 2025年(R7) (R2) ○新設備を活用した授業の展開 ○学習環境整備に向けた計画 ○機械・設備の整備 校内 先進的農業教育の実践 ・最新技術が学べる機械・設備の導入 ・環境制御温室の整備 販促技術の修得授業の実施 ・スタジオ、ディスプレイ工房の設置 課 【サテライト施設の整備】 題 ○直売所・交流施設の整備 ・直売所の基本設計 常設直売施設の整備 実施設計の策定 ・花フェスタを活用した教育環境 0 整備構想の策定 整理及び ・整備された施設等を活用した教育の 開始 ・座学が行える実習棟の ·実習棟の基本設計 ○実習フィールドの再整備 整備 実施設計の策定 ·実習棟整備構想の策定 花フェスタ記念公園 者 会議) 事業展 (花き牛産コース) 〇サテライト ○直売施設での販 ○消費者との交流によるニーズを捉えたものづくりの実践 施設の効果 ・消費者との交流によるコミュニケーション能力向上 を検証 • 教育環境向上 ・ニーズを捉えたものづくりの実践による技能向上 開 (検証内容) 生徒のモチベー 検 (花き装飾コース) ション向上 ・園芸アカデミ-○直売施設を活用 ○花フェスタ公園の施設を活用した装飾作品展示や発表会の実施 の認知度向上 した作品展示 ・来園者を観客とする発表会開催による装飾技能向上 ○全面移転の (造園緑化コース) ○座学スペース 検討 ○本格的な造園施工実 を活用した授 ○生涯学習 ○実習フィールドを活用した授業の拡充 業の実施 習の実施 機能の展開 • 学習効率向上 ○ 実践的技術の修得の推進 ○ 企業・自治体との連携強化 インターンシップ先の拡充 及び企業研修 インターンシップの充実 校外 ・自治体とのまちづくりの展開

・自治体と連携した生涯学習の実施

築

○ 地域社会との連携

の提案

学生提案による花と緑のまちづくり

(1)機能・事業展開のイメージ

コンソーシアムの機能

事業展開例

当面の取組

花文化振興

- 花文化の意識啓蒙
- ・ 園芸福祉・花育の普及
- ・花き文化団体と連携した花の活用促進に向けた地域活動の展開
- ・福祉系大学と連携した学生提案による園芸福祉の新たな展開
- ・暮らしの中や地域社会における花飾りの提案

花と緑を活かした 地域づくり

- ・地域での花の活用促進
- ・公共施設・公園の活用
- ・市町村等と連携した花と緑を生かしたイベントづくり
- ・公園・沿道・公共施設広場等の県民憩いの場での花飾り提案
- ・SDGsの理念に沿った花と緑のあふれる住みやすいまちづくり

広報・情報発信

- ・県産花きの魅力発信
- ・花の情報発信

- ・SNS等を活用した国内外に向けた岐阜県産花きの魅力発信
- ・コンテスト、コンクールの開催による花きの魅力発信
- ・花の広報・情報センター(仮称)の設置・運営

農福連携

- 花を活用した福祉活動
- ・ 園芸福祉活動の促進

・福祉施設での花の効果効用を生かした活用促進

・園芸福祉を活用した高齢者の活躍の場づくり

移住定住

- ・ 県外出身者の就農支援
- ・移住定住部門と連携した農地や空家・空八ウス情報の提供

新たな需要開拓

- ・異業種との連携
- ・花の効果効用の活用

・観光地での花を使ったデモンストレーションによるおもてなし

- ・地場産業(美濃焼・美濃和紙)とコラボした商品づくり
- ・花の効果効用を活用した花のある暮らしの提案

花き産業振興

- ·新商品開発 · 技術普及
- ・流通販売体制の充実

・マーケティングに基づく商品づくり(DXの活用等)

- ・新たな花屋認定制度創設による県産花き販売促進
- ・withコロナ時代にも対応したSNSを活用した流通・販売体制

研究開発

- ·新品種 · 新技術開発
- · 高品質 · 高付加価値化
- ・SDGsの理念に沿ったパートナーシップの充実による研究開発
- ・地球温暖化に対応した耐暑性品種の導入・生産技術の開発
- ・IoTやAIを活用した高品質化、高付加価値化の研究・実証

○学生提案による事業アイデアコンペの 開催及び提案事業への参画企業の募集

- ○国際園芸アカデミーと協定を締結した 自治体等との連携による学生の公園整 備への参画
- ○企業と連携した花と緑の癒しの空間づ < n
- OSNSを活用した県産花き情報の発信
- ○園芸福祉サポーターと福祉施設との マッチング支援による活躍の場づくり
- ○空ハウス情報の調査とデータベース化

企業 教育機

行 政

主体

事業

研 究

主体事 業

関

〇異業種と連携した新たな装飾スタ· ルの提案

₩G

- ○異業種交流会の開催
- 〇サブスクリプション商品の開発
- ○岐阜県オンリーワン品種の育成
- ○国際園芸アカデミーと連携した担い 手育成の推進

(1)設置・運営体制

(仮称)ぎふ花と緑の振興コンソーシアム

「構 成]

6

理事長

理事会

(清流の国ぎふ花き戦略会議 構成メンバー)

<賛助会員>

生産者、造園関連団体、メディア、大学等教育機関、 企業、研究機関、自治体、JA、金融機関等

[所掌事務]・花きの振興方策の策定

・事業計画・予算策定及び事業報告・収支決算

·WGの設置・運営・中間報告会等の開催

[事務局] 県(清流の国ぎふ花と緑の振興センター)

・行政と企業が連携した産業振興事業 「事業」

・企業等のワーキンググループによる事業

技術力のある人材 を業界への輩出

- ・業界二ーズに 応じた人材育成支援
- ・まちづくり 牛涯学習の協働

国際園芸アカデミー

(仮称)清流の国ぎふ

花と緑の振興センター

(設置・運営主体:県)

「所堂事務]

- ・「担い手育成施設」の設置・運営・予算措置
- ・担い手育成施設の研修受入・研修計画の策定・広報・情報発信
- ・コンソーシアム事業の運営支援(事務局)

担い手育成・支援施設

- 1 若手生産者の技術力向上研修の実施
- 2 経営管理能力向上研修の実施
- 3 新規就農希望者・定年希望者の技術習得研修の実施
- 4 国際園芸アカデミー卒業生の就農研修の実施
- 5 コンソーシアムWGの研究・実証試験の実施
- 6 スマート園芸など業界のDX化に向けた研究

連携フィールド

花フェスタ 記念公園

公園 公共施設

企業

農業技術 センター

若手生産者

就農希望者

(2) ロードマップ イメージ

(仮称) 清流の国ぎふ花と 緑の振興センター

【具体的取組み】

担い手育成・ 支援施設

(仮称) ぎふ花と緑の振興 コンソーシアム

【具体的取組み】

花文化振興・ 地域づくり

花の需要開拓 ・産業振興

新品種・新技術開発・品質向上

センター開設準備

2021(R3)

○規約策定

2020(R2)

課題

 \mathcal{O}

理及び事業展開検討

有識者会議

- ○担い手研修計画策定
- ○講師の選定

センター運営開始

○受講者募集

2022(R4)

- ○施設整備に向けた
- 業者選定(入札)

担い手育成・支援施設の運営

2024(R6)

- ○担い手育成研修実施
- コンソーシアムの運営支援
- ○企業や団体等との連携促進
- ○コンソーシアムWGの研究・実証試験

施設設置準備

- ○施設利用計画策定
- ○施設の仕様書作成

実施設計·施設整備

- ○研修品目導入
- 経営力強化研修開始 ○中核的担い手育成。

技術研修開始

2023(R5)

- ○担い手の新技術研修の実施
- ○新規就農希望者への技術研修実施

コンソーシアム設置

- ○規約策定
- ○コンソ参画企業勧誘

WG活動開始

- ○WGの立上げ
- ○参画企業等募集
- ○WG事業検討

事業化・ビジネス化検討

○WG有望事業の選定、ビジネス化検討

2025(R7)

○予算化

広報·情報発信

- 花の広報・情報センター設置 ~花の情報収集・発信の一元化~
- ○SNSによる情報発信/○地域の花飾り、イ
 - ○地域の花飾り、イベント情報発信
- ○就農支援(空きハウス・資材情報)

地域需要拡大

- ○自治体と連携した花と緑のまちづくり
- ○学生提案による新たな事業展開

活動定着

- 自立展開
- ○定着•波及
- ○活躍の場作り
- ○自治体・学校との連携

企業連携·新規開拓

- ○住宅、インテリア等の異業種業界との連携
- ○マーケティングによる最新トレンド把握

事業化展開

- ○事業化・ビジネス化へ
- ○新商品の開発

研究·開発

- ○品種開発を目指した民間企業との連携促進
- ○地球温暖化対策 省力・高品質化の検討

実証·普及展開

- ○ぎふオンリーワン品種開発
- ○スマート農業技術の導入